

# 東大阪市食品ロス削減推進計画(素案)に対するパブリックコメント募集結果について

東大阪市食品ロス削減推進計画(素案)について、貴重なご意見を賜り、厚く御礼申し上げます。

いただいたご意見に対する本市の考え方について、以下のとおり公表いたします。

## 記

1. 募集期間:令和3年12月15日(水曜日)～令和4年1月14日(金曜日)
2. 募集方法:郵送、ファックス、電子メール
3. 提出意見:6名から9件

NO	該当ページ	意見の概要	本市の考え方
1		<p>・以前からの事業系のフードロス削減の取組みに伴い、フードロスはH12年より減少傾向にあることから個人レベルの削減努力が必要となるのではないかと考える。</p> <p>・個人レベルの削減推進を後押しするため、コンポストや家庭用生ゴミ処理機の購入費用に対する市の独自の助成金制度の創設を求める(そもそも東大阪はSDGsや環境に関する助成金等がない)。</p> <p>・フードロスやゴミに関することだけでは持続可能な開発目標に到達できない。二酸化炭素排出量、化石燃料、温暖化等、様々な目線から多角的に解決する必要がある。</p>	<p>本計画(素案)の2ページ「2. 計画の位置付け」でお示している通り、「環境にやさしい 持続可能な循環型都市 ひがしおおさか」の実現に向けて、国の方針、大阪府の計画、「東大阪市一般廃棄物処理基本計画」、「東大阪市第3次環境基本計画」などと整合性を図りながら、施策を展開します。</p> <p>※生ゴミ処理機については、平成4年度から購入費の一部に対し補助金を交付していましたが、堆肥の利用先に限界があることなどから、平成28年度をもって終了しております。</p>
2		<p>この計画書を文書で拝見する限り、東大阪市民の心情に訴えています、とはとても思えません。もっと人の心に訴える表現が必要です。例えば、</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 食品ロスGメンを採用して廃棄された残飯食品を写真で撮って広報。</li><li>2. スーパー、コンビニの廃棄物処理現場のレポートを配信して 市民の「もったいない」精神に訴える。</li><li>3. 消費期限にも関わらず値崩れを恐れて安売りせず廃棄を選択する業者の摘発。</li></ol> <p>等々市民の眠っている「もったいない」「始末は美德」「温暖化対策に私も参加」意識を掘り起こしてください。</p>	<p>いただいたご意見を参考にしながら、食べ物に対する敬意や感謝の気持ちなど、食べ物を大切にする「もったいない」意識を醸成するための、より効果的な啓発方法を検討し、施策に反映します。</p>

NO	該当ページ	意見の概要	本市の考え方
3		<p>数値がわかりやすかったです。実際にやっている対策については少ないと感じました。</p> <p>市民ができることとしてはスーパーに並んでいるものの食品ロスに対しては賞味、消費期限が早いものから購入するぐらいですかね。可燃ゴミのメインは生ゴミとなっています。他の自治体では生ゴミ処理機の補助金が出るところもあります。食品ロスを減らすことは企業と一緒にやる(需要供給の把握、割引商品の販売時間の見直し)しかありませんが、残飯や過剰購入の食品ロスを減らし、エコ活動をするには生ゴミ処理機が各家庭に普及すれば分別意識のある市民は使用して生ゴミは減るのではないかと思います。是非、生ゴミ処理機購入時の補助金を出して欲しいです。意見違いでしたら申し訳ありません。ゴミの分別をしている中で調理後の生ゴミを減らすのはとても難しいと感じています。小さな子供がいるので、残飯を減らすこともなかなかできません。スーパーから期限近い商品を常に入れて子供に期限切れの食品を食べさせることもできないのでできることから環境維持に協力したいと思いました。</p>	<p>生ゴミの減量については、市民の皆さまに、おいしく、楽しく、自分事として取り組んでいただくために、買い物、調理、食事など、それぞれの状況に応じて、「毎日の食生活の中でできること」を周知啓発します。</p> <p>※生ゴミ処理機については、平成4年度から購入費の一部に対し補助金を交付していましたが、堆肥の利用先に限界があることなどから、平成28年度をもって終了しております。</p>
4	1ページ 計画策定の主旨	<p>生物が生きるための根本である「食」を重要視することは、持続可能な生態と人類成長のために必須の案件であり、今回の計画の主旨は大いに賛同できるものである。個人としても新たに意識を高めて日々取り組んでいきたいと考えている。</p>	<p>一人ひとりの取り組みが大きな食品ロス削減につながるため、今後も共感を持って取り組んでいただけるよう、積極的に情報収集、情報提供を行います。</p>
5	16ページ 施策1、2	<p>食品ロスの啓発や教育は、食品ロス削減を実現するための第1歩であり、広く実施することには賛成である。ただし、啓発冊子について広く市民に行き届くように駅やスーパーマーケット等の人流が多い施設で自由に入手できるような施策も必要ではないかと考える。また、通勤等で近隣市の駅も多く使用されていることから、近隣自治体との連携も必要である。さらに、市内には多くの外国人も住居していると思われる。それらの方々への啓発をどのように実施していくのか、外国語版の啓発冊子等の施策も検討していただきたい。</p>	<p>いただいたご意見を参考にしながら、在住・在勤の方々に対し、引き続き食品ロス削減への理解と実践を呼びかける啓発や環境教育の充実に努めます。</p>

NO	該当ページ	意見の概要	本市の考え方
6	17ページ 施策3	未利用食品を有効に活用すること、事業者と連携することには多いに賛成である。未利用食品は、子供食堂施設などの必要としている各種団体へ支給していくものと考えられるが、実際にどのような団体へ、どのくらいの種類・量を提供したかと言った実績も広く市民へ公表すべきであり、これにより市民における食品ロス削減意識がさらに高まるものとする。	未利用食品の有効活用については、情報を集約し、実績の公表を含め未利用食品を必要とする方々へ提供できるような実施手法を検討します。
7	19ページ 基本方針Ⅳ	食品廃棄物のリサイクルについては、専用事業者と連携して推進しているものとするが、リサイクル事業がゼロカーボン等の社会動向も加味して持続的に継続・成長しなければ食品廃棄物の有効活用も実現しなくなる。変革の必要性があるならば、今後の事業の方向性について議論・検討を進めて戴きたいと考えている。	本計画(素案)の21ページ「6. 計画の進行管理」でお示ししている通り、議論・検討を重ねながら適切に進行管理します。
8	20ページ 5、各主体の役割 ②事業者や各種団体の役割	<p>岸田総理大臣が昨年(2022)の年末に、牛乳が余っています。皆さん牛乳を買って下さいと国民に呼び掛けをしていましたが、私はこの呼びかけに疑問を持ちました。</p> <p>余っているから買って下さいではなく、生産の過程で余らないように流通させるべきではないかと思いました。</p> <p>今回は回避できたようですが、回避できない場合は沢山の牛乳を廃棄する事になります。大きな食品ロスであります。私は、工場型の畜産に問題があると考えます。</p> <p>欧米では畜産のアニマルウェルフェアが配慮されていますが、日本において、殆どの畜産は工場型であります。</p> <p>乳牛は、人工授精、出産を繰り返し沢山の乳を搾乳している、牛達はつなぎっ放しで歩く事もできない、糞尿が溜まり不衛生な環境です。</p> <p>豚や鶏も不衛生な狭い舎で走る事もできない、妊娠ストールに入れられ方向転換もできません。ブロイラーとして改良された鶏は障害を持った状態で動く事もできません。</p> <p>採卵鶏も狭いケージに入れられ人間の為に卵を産むだけの機械です。</p> <p>雄として生まれたひよこは残虐に殺されてしまいます。</p> <p>このような日本の畜産がSDGsの目標を達成で</p>	ご意見については、多様な考え方の一つとして承り、関係部局に情報共有します。

	<p>きるのでしょうか。</p> <p>牛のゲップは地球温暖化の要因です。工場型の畜産を無くし、動物の習性を生かし放牧に変える、アニマルウェルフェアに配慮した飼養環境であれば、過剰生産を防ぐ事が可能であると考えます。</p>	
9	<p>買いたい時に、買いたい物だけを取って購入するのではなく、生協のように1週間前や2週間前に1週間分の購入したい物を予約注文し、まとめて受取り、買う方式にすれば、食品ロスは大幅に削減できると思います。</p> <p>食品を売るスーパーやコンビニなどの小売店は、何がどのくらい売れるのか予測がつかないから、売切にならないように予め大めに商品を仕入れる。そのため、売れ残り(食品ロス)が生じて廃棄せざるをえなくなる。1、2週間前に予約注文にしておけば、その分量だけ前もって計画的に取り寄せ、お客さんに供給すれば無駄な売れ残りが一切でなくて効率がよいと思います。1、2週間前から予約することや、まとめて1週間分購入することは不便さはあるが、その分確実に無駄なもの(食品ロス)が削減できます。何事も便利な思いをする分、それだけの代償を払わされる事になり、裏表一体だと思っています。</p> <p>生協の1、2週間前から予約注文し、まとめて1週間分購入する方法は、無駄を省くという点において、非常に理にかなっていると思いますし、少し不便さはあるものの無駄を削減し、地球環境にもよいというやり方はこれからの時代に求められるやり方だと思います。</p> <p>今後は、小売店(スーパー、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンター、百貨店など)で、食品や日用品などの消耗品類を購入する時は、基本予約制にして、買いたい時に買いたい物を購入するという飛び込み方法は中止していく方が、効率がよく地球環境にもはるかによいと思います。</p> <p>何事も思い切った事をしていかないと、よい方向に社会を変えていく事はできないと思います。東大阪市が全国の先駆けで、そのような販売方法にしていくぐらいの思いで、取り組んでいけばよいのではないかと思います。</p> <p>食品というのは、原材料を作っている所、製造し</p>	<p>食べ物に対する敬意や感謝の気持ちなど、食べ物を大切にする「もったいない」意識を醸成するために、引き続き食品ロス削減への理解と実践を呼びかける啓発や環境教育の充実に努めるとともに、食品小売事業者に対し、食品ロス削減の取り組みを求めてまいります。</p>

	<p>ている所、郵送している所、販売している所、という風に多くの人の手間がかけられている物ですし、そのような尊い物を廃棄したり、粗末に扱ってはいけないのが本来の考え方であり、もっとその考えに立ち返っていく必要があると思います。</p> <p>今の自由すぎる買い方に制約をかけていくべきだと思います。自由に物が買えてしまうから、沢山買って沢山廃棄につながっていくという傾向があると思います。</p>	
--	--	--

※いただいた意見により、本計画(素案)に修正を加えた箇所はございません。